

宮古諸島新記録のイリオモテシャミセンヅル *Lygodium microphyllum* (Cav.) R.Br.

佐藤 宣子 (宮古島市教育委員会生涯学習振興課)

イリオモテシャミセンヅル *Lygodium microphyllum* (Cav.) R.Br. は、フサシダ科 Schizaeaceae カニクサ属 *Lygodium* の常緑多年生草本のつる性シダで、多少の湿地を好み、陽地に生育する (島袋 1985、岩槻 2006)。国内では八重山諸島の石垣島、西表島、与那国島に分布することが報告されている (初島 1971、仲村 1985、島袋 1985 1997、初島・天野 1994)。

宮古諸島においては、これまでに初島ら (1975) の植物調査、島袋 (1976) によるシダ植物調査がなされているが、本種の記録はない。また、2012 年から 2017 年にかけて実施された宮古島市史編さんに伴う維管束植物調査においても、

本種は確認されていない (横田ら 2016、佐藤ら 2020)。

今回、宮古諸島未記録の本種が産することを確認したので報告する。採集標本は宮古島市総合博物館に保管されている。

2020 年 8 月、調査により宮古島平良地区の雑木林内の林道沿いで本種を確認した (図 1)。林内にできたわずかなすき間の、かろうじて日の当たるような環境であった。確認箇所はこの 1カ所のみで、約 5m 四方のごく狭い範囲に少数個体が生育している。林内にはヤンバルアカメガシワ、シマグワ、アカメガシワなどのほか、植林と思われるアカギ、フクギがみられ、林床



図 1. 確認したイリオモテシャミセンヅル

A: 全体

B: 栄養葉

C: 胞子葉

にはエダウチチヂミザサ、ススキ、オオバギなどが確認された。

本種は、宮古諸島において同科同属として唯一分布確認されているナガバカニクサに似るが、葉身は淡緑色、単羽状に分岐することで区別できる。世界では台湾、中国、東南アジア、インド、ニューカレドニア、オーストラリア、ミクロネシア、熱帯アジアに分布している(島袋1997)。北米で野生化し、分布拡大が警戒されている(海老原2017)。

本報告の作成に当たり、文献の提供およびご助言いただきました琉球大学教授の横田昌嗣氏に、心より感謝申し上げます。

引用文献

- 海老原淳、2017年、『日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ』、学研プラス
- 初島住彦、1971年、『琉球植物誌 追加・訂正版』、沖縄生物教育研究会
- 初島住彦・天野鉄夫、1994年、『琉球植物目録』、沖縄生物学会
- 初島住彦・天野鉄夫・宮城康一、1995年、「宮古群島の植物」『沖縄県立自然公園候補地学術報告 宮古群島』、沖縄県、31-70
- 岩槻邦男編、2006年、『日本の野生植物 シダ』、平凡社
- 中村武久、1985年、「イリオモテシャミセンヅル」『日本のシダ植物図鑑 第4巻』、東京大学出版会、134-137
- 佐藤宣子・城間恒宏・横田昌嗣、2020年、「宮古諸島維管束植物目録」『宮古島市史第三巻自然編 第Ⅰ部 みやこの自然別冊』、宮古島市教育委員会、229-256
- 島袋敬一、1976年、「琉球列島付属小島シダ植物相 2. 宮古諸島」『琉球大学理工学部紀要(理学

篇) 22号』、琉球大学理学部、63-78

島袋敬一、1985年、琉球列島シダ植物分布図集Ⅱ

『琉球大学理学部紀要 第39号』、琉球大学理学部

島袋敬一、1997年、『琉球列島維管束植物集覧 改訂版』、九州大学出版会

横田昌嗣・阿部篤志・佐藤宣子、2016年、「宮古諸島から新たに見つかった維管束植物」『宮古島市総合博物館紀要 第20号』、宮古島市総合博物館、121-128

横田昌嗣・佐藤宣子・当山昌直・久貝勝盛・梶原健次・城間恒宏、2019年、「維管束植物」『宮古島市史第三巻自然編第Ⅰ部 みやこの自然』、宮古島市教育委員会、253-314